≪ 田野町地域公共交通網形成計画　体系図 ≫

平成 29 年　高知県田野町

【現状把握から現状整理】

① 移動手段の確保に困難を来している町民とその予備軍が存在している。

② 人口の減少と高齢化と世帯構成人員の減少･･･

③ 町の中心部には生活の維持に必要な機能や施設が集積している。

④ 中芸地域の視点でみると田野町は中芸地域の中心のひとつである。

⑤ 路線バスの利用経験者が少ない分は伸びしろと捉えられるのではないか。

⑥ 公共交通に関する情報が一元化されていない。

⑦ 町民は公共交通の整備に対して前向きと捉えられる。

⑧ 買い物は町内が多いが、病院はあちこちに行っている。

【公共交通に関する課題】

課題１
公共交通空白地区の解消

課題２
鉄道や既存の路線バスと連携した公共交通ネットワーク構築

課題３
公共交通ネットワークを持続させる取り組み

課題４
乗り換えが安全にできる拠点整備

課題５
地域全体で公共交通を育む意識づくり

課題６
生活を豊かにするための移動手段

課題７
広域的視点からの公共交通網再編の可能性

【課題解決の方向性】

- 公共交通空白地区解消に向けた新しい移動手段の確保。
- 既存の公共交通網に新しい移動手段を加えた全てのモードを路線、ダイヤ、サービスでつなげる。
- 試験的な運行を通じて地域ニーズに即した、持続する公共交通網の実現。
- 公共交通網を地域全体で支えることができる仕組みの構築。
- 公共交通利用者の意見や要望をくみ取る仕組みの構築。
- 公共交通の乗り換え待ちの利用者が快適に時間まで過ごすことができる待ち合い所の整備。
- 多くの交通網が集まる田野駅前について、町民の安全が確保できる整備。
- 公共交通に関する情報発信を通じた町民の意識づくり。
- 公共交通を使って生活を楽しむことができる様々な提案。
- 来訪者が田野町を公共交通で楽しむことができる観光との連携。
- 中芸地域の他自治体との協議を通じた検討。

上位計画及び関連計画

田野町まち・ひと・しごと創生総合戦略

[基本目標 2] 新しい人の流れをつくる より抜粋

- 田野町に住み、公共交通を利用して町外へ通勤、通学する方の利便性向上に取り組み、移住定住者の定着を図る。

[基本目標 4] 時代にあった地域をつくる より抜粋

- 高齢者や障害者等の買い物や通院、介護予防施設の利用や生きがいづくり、その他活動への参加機会の獲得を図る等、要配慮者への外出支援を行う。
- 住民の生活に必要な移動手段として、バス等による旅客運送の確保や地域内移動の利便性を向上させるため、地域に即した公共交通サービスの充実を図る。

→ 公共交通利用促進事業

→ 田野町外出支援事業

→ 田野町地域公共交通網整備事業

[将来像]

町民の誰もが、生活や活動のために何らかの移動手段を複数有し、その時の状況や目的にあった移動手段を選択できる環境の整備。

【基本方針】 / 【目　標】 / 【施　策】

■ 基本方針１　公共交通網の利便性向上

- ① 公共交通を誰もが利用できる環境づくり
- ② コミュニティーバスの定着
- ③ 広域交通ネットワークの利用促進への寄与

（1）公共交通空白地区の解消
- コミュニティーバスによる公共交通空白地区の解消

（2）公共の乗り物のネットワーク化
- 路線やダイヤ、サービスを通じた乗り継ぎ設定
- 安全で便利な乗り継ぎ場所の整備

（3）誰もが利用しやすい公共交通網の構築
- 誰もが分かりやすい情報発信
- 誰もが利用しやすい車両の導入

■ 基本方針２　持続する公共交通網へ

- ④ 公共交通網の利用促進
- ⑤ 公共交通利用者の満足度

（1）既存交通網の維持
- 鉄道や路線バスの確保、維持につながる支援
- 田野駅の利便性及び快適性向上につながる支援
- 路線バスの利便性向上につながる支援

（2）国や県、地域で支える公共交通網
- 国や県による支援制度の積極的な活用
- 地域で公共交通網を支える仕組みづくり

（3）新しい利用者の獲得と定着
- 利用しやすい運賃設定
- 自動車運転免許返納者への優遇制度
- 公共交通利用促進の啓発

■ 基本方針３　まちづくりとの連携

- ⑥ 外出機会の創出

（1）観光との連携
- 来訪者への情報発信
- イベントなどと連携した柔軟な運行体制構築

（2）福祉との連携
- 移動制約者の見守り活動
- 外出支援を促す ミニイベントの開催

（3）教育との連携
- 公共交通乗り方教室の開催
- 子どもアテンダントによる高齢者の利用支援

四国一面積が小さくて、四国一魅力的な町

田野町